



ヨゼフ・アベイヤ司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人 浦川 務
編集人 浦川 務
カトリック福岡司教区
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 1部70円

1月の意向

【教皇の意向】 教育を受ける権利
【日本の教会】 聖年

2025年を迎えて 希望をもって歩み始める



ヨゼフ・アベイヤ司教(福岡教区長)
「新年おめでとうございませす。この挨拶は、新しい年を迎えて何回も繰り返したことでしよう。本当にこの一年が、一人ひとりにとって幸せなときになることを心から望みます。同時に、すべての人にとってこうなるように努力したいと、決意を表していることばでもありますように。」

キリスト教一致祈禱週間 (1月18日~25日)
2025年テーマ 「あなたはこのことを信じますか」 (聖書箇所ヨハネ 11・26 参照)
キリスト教諸教会では、毎年この1週間を「キリスト教一致祈禱週間」と定めています。教皇庁キリスト教一致推進評議会と世界教会協議会は1968年以来、毎年テーマを決め、「礼拝式文」と「8日間の聖書の黙想と祈り」を作成しています。
※右記QRコードからご覧ください。
【合同礼拝】
日時：1月19日(日)18時~19時
開場：カテドラル大名町教会 (福岡市中央区大名2-7-7)

【世界奉獻生活の日】 分かち合いと感謝ミサ
聖ヨハネ・パウロ二世教皇は、主の奉獻の祝日である2月2日を「世界奉獻生活の日」と定めました。すべての信者は、奉獻生活の賜物を感謝し、この道を生きるように召されている兄弟姉妹のために祈る日になっています。
福岡教区でもこの日を祝うためにミサを捧げます。(参加できない方のためには動画配信有り)
＜スケジュール＞
日時：2月1日(土)
14:00 奉獻生活の喜びの分かち合い (聖心のウルスラ宣教女修道会・幼きイエス会)
15:30 感謝ミサ(司式:ヨゼフ・アベイヤ司教)
場所：カテドラル・カトリック大名町教会
※動画は福岡司教区ホームページ http://fukuoka.catholic.jp か 右記QRコードからご覧ください。

能登半島地震から1年
昨年、2024年1月1日、日本中が新年の祝いでにぎわっていたときに、能登地方を襲った大きな地震から1年が経ちました。多くの方が今もなお、悲しみ、苦しみ、不安のうちに生活しておられることを心に刻み祈りましょう。すべての人の苦しみを担われ、復活の希望と光を示してくださったキリストが共にいてくださることを、私たちが証しできますように。(福岡教区災害被災者支援室)

お正月には、1968年、聖パウロ六世教皇が、全世界のカトリック教会で「平和の祈り」をするように定められ、それから毎年1月1日、私たちは欠かさず、地球の上のすべての国々の人々の間に平和を祈りしています。イエス様は、復活したとき、まず弟子たちに現れて、

「平和があるように」と挨拶なさいました。そして全世界に福音を伝えるように命じました。イエス様は、今も私たちに向かって「平和があなたちとともにあるように。御父が私を遣わされたように、私もあなたたちを遣わす。」(ヨハネ20・21)と言われます。

「平和があるように」と挨拶なさいました。そして全世界に福音を伝えるように命じました。イエス様は、今も私たちに向かって「平和があなたちとともにあるように。御父が私を遣わされたように、私もあなたたちを遣わす。」(ヨハネ20・21)と言われます。

「平和があるように」と挨拶なさいました。そして全世界に福音を伝えるように命じました。イエス様は、今も私たちに向かって「平和があなたちとともにあるように。御父が私を遣わされたように、私もあなたたちを遣わす。」(ヨハネ20・21)と言われます。

「新年おめでとうございませす。この挨拶は、新しい年を迎えて何回も繰り返したことでしよう。本当にこの一年が、一人ひとりにとって幸せなときになることを心から望みます。同時に、すべての人にとってこうなるように努力したいと、決意を表していることばでもありますように。」

1. 終戦、そして原爆投下から80年
戦争を思い起こすのはつらいことです。ただ、教皇ヨハネ・パウロ二世が広島と平和公園で述べられたように、「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことです。過去を振り返ることによって、私たちは、よいことを受け継いでさらに生かし、過ちを繰り返さない責任を認識します。過去を振り返って、死

2. 第二バチカン公会議から60年
若い人にとっては昔ばなしに聞こえるかも知れませんが、

3. 教皇フランシスコ 日本司牧訪問から5年
皆さんが体験した出来事ではなく、日本社会全体に大きな

「平和があるように」と挨拶なさいました。そして全世界に福音を伝えるように命じました。イエス様は、今も私たちに向かって「平和があなたちとともにあるように。御父が私を遣わされたように、私もあなたたちを遣わす。」(ヨハネ20・21)と言われます。

「平和があるように」と挨拶なさいました。そして全世界に福音を伝えるように命じました。イエス様は、今も私たちに向かって「平和があなたちとともにあるように。御父が私を遣わされたように、私もあなたたちを遣わす。」(ヨハネ20・21)と言われます。

「平和があるように」と挨拶なさいました。そして全世界に福音を伝えるように命じました。イエス様は、今も私たちに向かって「平和があなたちとともにあるように。御父が私を遣わされたように、私もあなたたちを遣わす。」(ヨハネ20・21)と言われます。

が、現在の教会を徹底的に方向づけた大事な出来事でした。1962年10月11日に始まり、1965年12月8日に閉会した公会議です。教会と社会の遊離に気づき、現代世界における教会の在り方と使命をテーマにしています。公会議から出された指針は、一人ひとりの信仰の歩みを支える典礼の刷新や、みこ とばを生活に受け止める重要性を推進し、他のキリスト教教会との一致や他の宗教との対話の道を示し、現代世界において福音の光をともしていく教会の在り方を促しました。そして、信徒、修道者、司祭、司教としてそれぞれ与えられた召命を生かすことによつて、生き生きとした教会を築いていく道を示しました。

第二バチカン公会議が求める道を受け継いでいる私たちが、喜びをもって、福音の良いい知らせを、置かれた場において告げ知らせるように招かれています。

「あなたたちは、何のために生きるかということだけでは、誰のために、誰とともに生きるかということを考えてください」と。とても大事なことです。

2025年が皆さんにとってよい年になるように祈ります。ヨゼフ・アベイヤ

「平和があるように」と挨拶なさいました。そして全世界に福音を伝えるように命じました。イエス様は、今も私たちに向かって「平和があなたちとともにあるように。御父が私を遣わされたように、私もあなたたちを遣わす。」(ヨハネ20・21)と言われます。

時の話題

お正月には「平和の祈り」をしましょう

「平和があるように」と挨拶なさいました。そして全世界に福音を伝えるように命じました。イエス様は、今も私たちに向かって「平和があなたちとともにあるように。御父が私を遣わされたように、私もあなたたちを遣わす。」(ヨハネ20・21)と言われます。

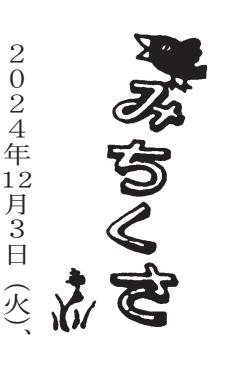
「平和があるように」と挨拶なさいました。そして全世界に福音を伝えるように命じました。イエス様は、今も私たちに向かって「平和があなたちとともにあるように。御父が私を遣わされたように、私もあなたたちを遣わす。」(ヨハネ20・21)と言われます。

「平和があるように」と挨拶なさいました。そして全世界に福音を伝えるように命じました。イエス様は、今も私たちに向かって「平和があなたちとともにあるように。御父が私を遣わされたように、私もあなたたちを遣わす。」(ヨハネ20・21)と言われます。



「平和があるように」と挨拶なさいました。そして全世界に福音を伝えるように命じました。イエス様は、今も私たちに向かって「平和があなたちとともにあるように。御父が私を遣わされたように、私もあなたたちを遣わす。」(ヨハネ20・21)と言われます。

「平和があるように」と挨拶なさいました。そして全世界に福音を伝えるように命じました。イエス様は、今も私たちに向かって「平和があなたちとともにあるように。御父が私を遣わされたように、私もあなたたちを遣わす。」(ヨハネ20・21)と言われます。



「平和があるように」と挨拶なさいました。そして全世界に福音を伝えるように命じました。イエス様は、今も私たちに向かって「平和があなたちとともにあるように。御父が私を遣わされたように、私もあなたたちを遣わす。」(ヨハネ20・21)と言われます。

第3回 司祭集会
目の前に大切な方が見えていれば



「喜びは高まり、感謝は深い」と語る釈氏

講師は、北九州市八幡西区にある、建立530年の歴史をもつ浄土真宗本願寺派「光円寺」第19代住職・釈博隆（しゃくはくりゅう）師。お経を、そして親鸞聖人の言葉を、わかりやすい現代日本語に自ら著された『生きるための真宗聖典』を引用しながら、お話しくださった。以下に要点を。

2024年11月26日（火）「教区第3回司祭集会」が大町教会にて開催され、40人の司祭が参加した。テーマは「現代社会の中で教会（宗教団体）に求められていること。また、それに応えるために大切にすべきこと」。

① 家制度が衰退し、核家族・個人の時代を迎えた現代社会に、残念ながら仏教は適応・対応できていない。
② 日本人の特徴として、「あつちこつちの神様」に健康・幸せ・合格・商売繁盛・無病・宝くじ当選…等を求め

るご利益信仰と、故人の法事には大勢が集まる先祖崇拜がある。
③ 浄土真宗は神々に頼らない教え。「目の前に、釈迦が見えているように修行せよ」と、事の原因と結果を考え、自らを頼り律する生き方。教会も、真剣に自省し変わるべき目指すものが…。
午後には、講師の話を受け参加司祭たちの分かち合いが行われ、多々共感の声が上がった。

教会にも、信徒にも、家族の姿にも特徴的な価値観の変化は否めない。問題山積みの難しい時代である。他者への要求よりも、先ず自らが真剣な姿を証ししなければ…。
講師からの印象深く残る言葉がある。
「よろこびはいよいよ高まり、感謝の思いはますます深い」
報告 黒崎・天神町教会主任 杉原 寛信神父

福岡教区創立100周年に向けて

2027年7月16日、福岡教区は創立100周年を迎えます。それに向け、今号より、各小教区や団体で取り組んでいること、心がけていることなどについて具体的な活動を紹介していきます。教区創立100周年は右記QRコードからご覧になれます



ともに歩む教会のあり方
福岡地区研修会



終了時間を越えて続く分かち合いのとき

福岡教区創立100周年に向け、その取り組みの一環として、ヨゼフ・アベイヤ司教を講師に迎え「ともに歩む教会のあり方」について研修会が開催された。

研修会では、教区宣教司牧方針ハンドブックから、「恐れることはない」(p.4)の朗読で始まり、参加者は当日の秋の暖かい日差しと同じ、温かな雰囲気の中で心を開いて分かち合った。

アベイヤ司教のユーモアを交えた講話はわかりやすく、皆を和ませ好評だった。司教は「教会のつながりを再構築し、離れている方々が戻ってくるように」と願いを込め、教皇フランシスコの言葉「出会うこと、聞くこと、識別すること」の重要性について、また「教会は司教、司祭、修道者、信徒の順番だけではなく、信徒、修道者、司祭、司教でもある。皆が心を開いてともに歩む美しさと難しさを体現し、キリストを中心に祈り、福音に沿って判断し、皆で識別していくことが、ともに歩むことである」と強調した。信徒同士の間が深まった。

分かち合いでは、「互いに支え合いながらも一人ひとりが責任を持ち、福音的リーダーシップを発揮する」「イエスの声を聞き、み言葉を基盤とする場を設け、平和を祈りつつ信仰を生活に根ざす」「教会は人々を引きつけること」という思いが話された。また、「教会に来て良かったと思うこと」についての分かち合いでは、「友人ができる楽しみや、新たな人々との出会いがあった」「ミサ後のお茶とバザーを続けることで、つながりを保っている」「ミサを休んだ翌週『何かあった？』と心配してくれたのが嬉しかった」などの経験が分かち合われた。福岡地区長 寺浜亮司神父（吉塚・南柏屋教会主任）

福岡教区青年センター「カタラント」
開設から充実した1年を振り返って



仮装で盛り上がったハロウィンパーティー

福岡教区青年センター「カタラント」は、2024年4月28日に開設し、はや8か月が経とうとしています。様々な形で支えてくださった方々に心から感謝いたします。

この期間、センターを通して多くの活動を企画してきました。6月には、タリタコムユースアンバサダーのスタッフ2人をお呼びして人身売買について学び、9月には能登半島地震のボランティアに行つた聖心のウルスラ宣教女修道会のシスター水田由美子による報告会、10月には夏休みにカノッサ修道女会の主催するフィリピンボランティアに行つた栗原聡史くん（笹丘教会）の報告会や、松浦悟郎司教様（名古屋教区）との懇談会、いつもカタラントをサポートしてくださっている愛の十字架修道会のシスタートウによる「ペトナム料理研究会」、また、ハロウィンパーティーも実施しました。11月には、カノッサ修道女会を訪問。明光学園を見学し、大牟田教会も訪ねて、豊かな時間を過ごしました。12月22日

（日）には、クリスマス会を予定しており、国籍問わず多くの若者が参加できるイベントを企画しています。また、2月には日本二十六聖人殉教祭への巡礼も計画しています。
今、カタラントは福岡地区の日本人青年10人が中心になって様々なイベントを企画・運営しています。シスター水田やシスタートウ、ドミニコ会のルカ・ジョン・ソックン神父様など、司祭・修道者のサポートもあり運営できています。スタッフの青年たちは、学業や仕事がある中、週3回（月・木・土）も集まり、青年たちの繋がり場の提供をしています。この場所を通して、日本人、インドネシア人、スタッフの友人の訪問など、多くの実りをもたらしています。信者でない青年の訪問もあります。

このセンターを始めるにあたり、福岡地区の青年たちが快く、また、温かく青年の集う場所を提供していることに、私は深く感謝しています。訪問者が全くない日もゼロではありませんが、この存在するとういう奉仕、「その場所に居続ける」という奉仕を、青年たちは行っています。私は、この福岡教区青年センターのスタッフたちを誇りに思っています。

2025年度は、さらなる飛躍のために、多くの企画を計画しています。楽しみにしていてください。そして、皆様の力をお借りして、青年を集めていただくと幸いです。
報告 栗原聡史神父（笹丘教会助任）
聖アウグスチノ修道会

主のご降誕と新年のお慶びを申しあげます

- 教区長 ヨゼフ・アベイヤ
名譽司教 宮原 良治
司教総代理 中村 彰
教区本部事務局長 十時 伸治
教区本部会計 青木 悟
司教館 船津 亮太
(ローマ留学) 渡辺 隆義
(引退) 山頭原太郎
【福岡地区】 島山 七郎
司祭の家 平田 敬
糸島 岩下 和樹
糸島 山口 好信
大牟田 (協) D・ジョンソン
古賀 O・ベルナルド
大牟田 W・マヘル
菅丘 S・サミット
菅丘 M・ヒルデン
浄水通 桑原 篤史
大名町(能古島) 牧山 勝美
中村 彰
【佐賀地区】 ジョン・ウオンチヨル
ファン・ヴァン・チュエン
高宮 K・ブラビン
サンタム・トリロンチャム・イクト
茶山 岩下 和樹
西新(管理者)
箱崎 R・フィリピーニ
ルカ・ジョン・ソックン
光丘 兵頭 俊介
吉塚(南柏屋) 寺浜 亮司
大山 悟
老司 大山 悟
旧カトリック神学院
(サン・スルピス司祭会) 牧山 強美
Q・ベルナルド
大山 悟
熊本地区 荒尾・玉名 C・クラウディオ
武蔵ヶ丘(恵楓園) 平田 三好
崎津・大江・本渡 竹内 英次
手取・帯山 櫻井 尚明
シントウキ
菊池(山鹿) S・ダロイト
健軍(高遊原) 中村 信哉
島崎 A・トゥルコ
人吉 F・マツケイ
八代・水俣 H・オカローリ
真命山 C・クラウディオ
S・フランコ
園田 善昭
【北九州地区】 飯塚・田川 キム・ソッチョン
黒崎・天神町 杉原 寛信
小倉 青木 悟
ルーカス・レック
新田原 井手 公平
戸畑・若松 ソ・インドック
水巻・直方 谷口 尚志
門司 キム・ジョンギン
湯川 イム・ドンビン
行橋・田川(豊津) 下町 豊重
【筑後地区】 今村・本郷 浦川 務
中尾 直通
【熊本地区】 スペイン・マドリッド教区から
ヘスス・C・ロドリゲス

社会医療法人 雪の聖母会
聖マリア病院
〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942(35)3322 FAX.0942(34)3115
聖マリアヘルスケアセンター
〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5
TEL.0942(35)5522 FAX.0942(34)3306
信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん
と一緒に働いてみませんか
URL: http://www.st-mary-med.or.jp/

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

トマス・ポール・ドワイヤ神父
(聖アウグスチノ修道会司祭)
12月9日帰天。享年92。
1932年10月23日米國ペンシルバニア州生まれ。
1950年9月、アウグスチノ会入会。1958年12月ローマで司祭叙階。
1959年より長崎・城山教会及び聖マリア幼稚園・聖マリア学院小中学校、福岡・菅丘教会及び菅丘カトリック幼稚園、名古屋港教会、東京・葛西教会にて助任司祭、主任司祭、園長、聖マリア学院理事長等を歴任。
2010年米國へ帰国し、ヴィラノヴァの聖トマス修道院で生活していた。



計報

福岡の街に主の降誕の喜びを知らせる
第75回 福岡市民クリスマス



花束贈呈で(左から森山司教、北田氏、北田夫人)

12月9日(月)、福岡市民会館で行われた福岡市民クリスマス。今年のゲスト講話は盲目の賛美伝道者・北田康広氏と大分教区 森山信三司教。コーラスや演奏は、西南学院大学聖歌隊チャペルクワイアに、カトリックや他のキリスト教会が加わって結成された聖歌隊約80人だった。チャペルクワイアの美しい讃美歌により厳かに始まった。第一部では北田氏のピアノ演奏3曲に夫人の伴奏で5曲の独唱、さらに点字を読み取りながらの講話は大きな拍手に包まれた。第二部では森山司教がクリスマススの意味を語った。「赤ちゃんが傍に来ても怖いと思う人はいない、赤ちゃんの笑顔は喜びだ。イエスキリストの誕生とその存在はそういう意味合いがある。」「普通、亡くなった人の誕生日を祝いはしない。イエスキリストは生きていて、だからこそ誕生日を皆で祝う。しかし、今は生まれたとされる。静かに祈るクリスマスにしたもの」と呼びかけた。第三部では聖歌隊の讃美歌3曲の合唱があった。

参加者からの声は、「北田氏の独唱やピアノに霊的なものを感じて涙が込み上げてきた」、「聖歌隊の合唱はもともと聴きたかった」、「森山司教の講話が素晴らしかった」など。10月18日(金)、大濠カトリック会館で開催された福岡地区カトリック女性の会主催の1日黙想会に参加しました。テーマは「ミサを生きる」。アベイヤ司教様に同伴していただきながら、日々の生活を振り返り、ミサに与る私たちの生き方を5人ほどのグループに分かれて分かち合いました。小教区を超え、普段出会うことのできない方々と



聖歌隊のメンバーからは「西脇純先生(西南学院大学)の指導がとてよかったです」との声が聞かれた。福岡地区カトリック女性の会 黙想会 ミサを生きるために

ある市民クリスマス。ライブ配信もあるが、より多くの方が会場に足を運び、共に祝えたらと思った。報告 西山淳子(笹丘教会)

分かち合いは出会いのめぐみ

の語り合いの中で、胸躍らせながら各人の話に真剣に耳を傾ける姿に、心をゆるし合う場の一致を感じました。グループでの分かち合い後は全体で発表の場を持ち、他のグループから出た豊かな内容を皆で分かち合い、アベイヤ司教様の講話を聴きま

す。「イエス様の死と復活の記念は、ご聖体を通してすべての人々が生かされるように、いつまでもその命を与え続けている。私たちは皆招かれていて、ミサに与ることは喜びと感謝を持ってその招きを受け入れることです。また、司教様が海外で体験されたミサの様子を聴きながら、ミサでの所作を気にする自分の中に、習慣に囚われ、他人の目を気にする心の表れに気づきました。他にも、どんな慰めがほしいか?何を赦していただきたいか?今、重荷に

なっていることは何か?私達の糧は何か?何を感謝したのか?自分にどんな問いかけが必要かを示していただき、祈りの黙想に役立てました。最後に感謝の祭儀で主の食卓を囲み、今日いただいた糧を振り返りながら、キリストとの一致に感謝し、喜びのうちに各々の場所へ派遣されました。大名町教会 江藤祐子

令和6年11月12日(火)、阿蘇郡南小国「うすねぎ(臼内切)」にて、オカロール神父様司式による12家族の殉教者に対するミサが執り行われました。江戸時代末期、嘉永6年(1853年)にキリシタン弾圧を逃れ、密かに隠れ住んでいた人々は、後にある寺の住職から密告されました。細川藩の兵員により一夜にして全員が打ち首の刑に処せられました。神父様は説教の中で「この時代に洗礼を受けた人たちは、殉教する覚悟をしていた」と語られました。私は受洗の勉強を始めてから半年頃、聖堂で八代の殉教者についての本を読んでいる時、「覚悟せよ!」という声が聞こえ、大変驚いた経験があります。私は結婚時にイスラム教徒となっていました。かつて住んでいたエジプトのアレクサンドリア市では、教会への自爆テロが発生し、多くの司祭や信者たちが亡くなりました。日曜になると、教会の周囲には無数のムスリムが集まりデモが行われていたのを目撃しました。これらの経験から、カトリックに改宗するというリスクを十分に理解していません。相当の覚悟が必要です。聖書にあるように「いのちの言葉を自分のものとすることによって、人々の中で、この世に輝く星のように光り輝く」(フィリピの信徒への手紙2:15-16)のために。ミサの中で神父様は「殉教者たちが最後に唱えた主の祈りを共に唱えましょう」と呼びかけ、参列者全員が心を込めて祈りを捧げました。私たちが天の御父のみ旨を地で行うため、「本物の平和の道具」として働けるように。帯山教会のSさんは、神父様が赤いストラを首に掛けた時、多くの殉教者の霊魂が光となって喜びのうちに集まり、お説教の間ストラから緑色の美しい光が放たれているのを目撃しました。殉教者たちの強い信念に心を打たれた、素晴らしい感動的なごミサでした。八代教会 下村淑子



殉教者と共に主の祈りを捧げる

もう一つの殉教祭 忘れ去られた殉教者

4年ぶりにリーグ優勝を果たした福岡ソフトバンクホークスの優勝パレードが、11月24日(日)に行われた。沿道には多くのファンが溢れ、道路も閉鎖中で、ミサ後の大名町教会信徒は帰路への身動きが取れない状態だったが、パレードが目の前を通る時には教会の鐘を鳴らし、教会の旗も振って、階段やバルコニーから祝福の声を送った。

募金総額は21万1805円で、全額、在福のウクライナの方のために寄付された。ホークス優勝パレードを教会の鐘でお祝い

南粕屋教会 3回目のコンサートとバザー

今年度はカリタス・ジャパンが東京から参加し、ウクライナや能登半島支援の現状について説明を行った。「カリタスはカトリック教会の存在する所ならどこでも活動拠点ができ、小さな声にも対応できる」と語る声は力強く、支援活動への協力を呼びかけた。コンサートの前には、避難者をサポートするNPO法人グローバルライフサポートセンター代表の山下ゆかり氏(吉塚教会所属)から「避難から在留が認められ、日本



バザー会場にはカリタスジャパンのブースも!

11月17日(日)、今年で3回目となるウクライナ人道支援のためにコンサートとバザーが開催され、ウクライナ

からの避難者家族14人が招待された。今年度はカリタス・ジャパンが東京から参加し、ウクライナや能登半島支援の現状について説明を行った。「カリタスはカトリック教会の存在する所ならどこでも活動拠点ができ、小さな声にも対応できる」と語る声は力強く、支援活動への協力を呼びかけた。コンサートの前には、避難者をサポートするNPO法人グローバルライフサポートセンター代表の山下ゆかり氏(吉塚教会所属)から「避難から在留が認められ、日本

今年度はカリタス・ジャパンが東京から参加し、ウクライナや能登半島支援の現状について説明を行った。「カリタスはカトリック教会の存在する所ならどこでも活動拠点ができ、小さな声にも対応できる」と語る声は力強く、支援活動への協力を呼びかけた。コンサートの前には、避難者をサポートするNPO法人グローバルライフサポートセンター代表の山下ゆかり氏(吉塚教会所属)から「避難から在留が認められ、日本

今年度はカリタス・ジャパンが東京から参加し、ウクライナや能登半島支援の現状について説明を行った。「カリタスはカトリック教会の存在する所ならどこでも活動拠点ができ、小さな声にも対応できる」と語る声は力強く、支援活動への協力を呼びかけた。コンサートの前には、避難者をサポートするNPO法人グローバルライフサポートセンター代表の山下ゆかり氏(吉塚教会所属)から「避難から在留が認められ、日本



選手も大きく手を振り感謝の意を表していた

広告掲載をご希望の方は下記までお問い合わせください
福岡教区本部事務局 広報部
電話 : 092-522-4059
メール : cdf-kouhou@nifty.com
※この枠で1回(ひと月)5,000円の献金(目安)をお願いしております。
※内容によってはお断りさせていただきます。あらかじめご理解とご了承のほどをお願いいたします。

サンパウロ 福岡宣教センター
営業時間: 10:00~18:00
定休日: 日曜日・祝日
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26
tel. 092-721-2032 / fax. 092-739-3930
E-mail: fukuoka@sanpaolo.or.jp

不動産全般/売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください
株式会社 ジャパン・スマイルか
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092-761-8800
http://www.iruka-japan.com/

総合建築業
・一般住宅(新築・改築工事)
・鉄骨工事
・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ 森山 森山 新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎(092) 811-7265

今号は、「読みま専科」はお休みいたします。

年間目標

互いに支え合う
交わりの教会となる

26聖人を追って
—西新教会～26聖人と歩く会—

1597年2月1日、26聖人は博多埠頭に上陸し、2月5日、長崎県西坂にて十字架の栄光に与りました。

2019年2月1日、「西新～26聖人と歩く会」も聖人たちを追って西坂に向け歩き始めました。そして2023年からは恒例行事として、博多埠頭から西新教会までの6km余りを2～3時間かけて歩いています。

2025年2月1日も歩きます。皆さんも一緒に歩きませんか。

<スケジュール>

[日時] 2月1日(土)

集合: 11:45 ベイサイドプレイス内 大水槽前
出発: 12:00

中継地: 大名教会 (13:00着 13:30発)

終点: 西新教会 (15:00着)

祈り・歌・お茶等

解散: 16:00

* 出欠は取りません。ベイサイド・大名教会の行程のどこからでも自由にご参加ください。

* コースは地下鉄やバス道に沿っていますので、何処からでもリタイヤできます。

* 全天候決行します。

[連絡先] ☎ 080・5273・5961 (河野・西新教会)

☎ 090・8809・3049 (Br小川・聖パウロ会)

福岡地区青年センター カタラント主催

長崎巡礼のお知らせ

[日時] 2025年2月1、2日(1泊2日)

[場所] 長崎市殉教地各地

[宿泊] カトリック城山教会

[対象] 九州地区の青年

[定員] 25人(福岡発組)※現地集合や自家用車での参加も可能です。

[申込締切] 12月28日(土)

[問合せ先] ☎ 080・3991・0354

桑原篤史神父(笹丘教会)

Email: catalant0428.info@icloud.com



テゼの歌を用いた黙想と祈りの集い
～キリスト教一致祈禱週間(1月18日～25日)
に思いを寄せて～

[主催] 宣教養成委員会

[日時] 1月23日(木) 19時～約1時間

[場所] 大名町教会小聖堂

ろうそくを見つめ、テゼ共同の短い歌を繰り返し歌って祈ります。

キリスト教一致のために祈りを捧げ、黙想する時間を過ごしませんか?

ホームレス支援 スープの会

2月から3月の2週目までの毎週金曜日に越冬炊き出し

[調理ボランティア]

14時～ 大名町教会 1階厨房

[夜回り(配布)ボランティア]

19時 初参加者レクチャー

20時 夜回り準備(袋詰め)

20時半 各コースへ編成決め

21時 各コース夜回り出発

[献品]

冬物の寝袋や防寒着、新品の下着

靴下、大きめのリュックサック、冬服

[問合せ先]

☎ 080・1793・0481 深堀

☎ 080・4317・4152 飛永 ☎ 090・8412・7803 前田



— 召命を共に祈る会 —

福岡地区 1月21日(火) 13時30分～ 大名町教会

[問合せ先] ☎ 092・921・4532 山口

北九州地区 1月11日(土) 14時～ 小倉教会

[問合せ先] ☎ 0949・24・9905 藤井

熊本地区 1月16日(木) 9時30分～ 健軍教会

[問合せ先] ☎ 096・369・8896 松上

— 各種団体の定例会 —

詳細につきましては、福岡教区ホームページ「教区報1月号」、または右記QRコードからご確認ください。



福岡教区広報室アドレス

https://fukuoka.catholic.jp

E-mail: cdf-kouhou@nifty.com



案内板

会合と催し

1月のこよみ

福岡教区創立100周年に向けて
かつどう・できごと掲示板

「シノドス的」な教会の歩みを推し進めましょう!

2027年7月16日まで

あと 30ヶ月



(大名町教会に掲げられた懸垂幕)

12月18日(水)、大名町教会に「懸垂幕」が掲げられました。さあ、100周年に向かって共に歩み始めましょう。

真命山諸宗教対話センター - 祈りの集い -

年間テーマ: 希望の巡礼者

日時: 1月9日(木) 10時～15時

内容: 「聖年とは」新しい始まりの希望: 聖年を迎える

日次: 2月13日(木)

内容: 「希望はわたしたちを欺くことはありません」

教皇フランシスコの呼びかけ

※2025年から、指導はチームで行われます。

問い合わせ先: 真命山諸宗教対話センター

☎ 0968・85・3100 FAX 0968・85・3186

熊本県玉名郡和水町疇浦1391-7

E-mail shinmeizan@gmail.com

☆個人またはグループでの黙想会、研修会も歓迎いたします(要予約)

集いの詳細は、
各問合せ先に
お尋ねください。

美野島司牧センター
ホームレスの方に温かい食事と衣類

毎週火曜日10時
ホームレス支援炊き出し

毎週金曜日
調理14時 夜回り20時

路上からアパートに入居した方を訪問 第3土曜日14時

問合せ先 ☎ 092・4331・1419 コース・マルセル神父

大濠カトリック会館・宣教養成センター

ミーアサロン大濠
第1・第3水曜日10時

問合せ先 ☎ 092・753・6765 角田

みことばのお弁当
第4木曜日10時

問合せ先 ☎ 092・753・6765 大濠カトリック会館

編集後記

「富士(ふじ) 二鷹(たか) 三茄子(なすび)」。言わずと知れた、初夢に出てきたら縁

LỄ THÁNH GIÁO HOÀNG GIOAN PHAOLÒ II
BỔN MẠNG CỘNG ĐOÀN VIỆT NAM

聖ヨハネ・パウロ二世 大名町ベトナム共同体の保護の聖人
JB. Phạm Văn Thuyên. CM.

(洗礼者聖ヨハネ ファムバンチュエン神父)

Ngày 22/10 hằng năm, lễ nhớ thánh Gioan Paul II. Tuy nhiên, năm nay, vào chủ nhật ngày 27/10 lúc 13h30, tại nhà thờ Chính tòa Daimyomachi, Cộng đoàn Việt Nam long trọng mừng lễ thánh Gioan Paul II, bổn mạng cộng đoàn.

Trong thánh lễ, Đức cha Giuse Abella chủ tế, cùng với quý cha, quý Sr và khoảng 190 người tham dự. Thánh lễ thật long trọng và sốt sắng.

Sở dĩ, cộng đoàn chọn thánh Gioan Paul II làm đấng bổn mạng, bởi ngài là vị thánh của thời đại, vị thánh của người trẻ. Ngài luôn quan tâm tới người trẻ trong sứ vụ mục tử. Ngài từng thành lập đại hội giới trẻ thế giới vì người trẻ. Ngài là mẫu gương sống động của sự trẻ trung, vui tươi, nhiệt thành, can đảm, hy sinh, và niềm tin mãnh liệt vào Chúa Giêsu Kitô. Đó là tinh thần hợp với giới trẻ, cho giới trẻ, và vì giới trẻ.

Ngoài ra, trong thánh lễ, Đức cha còn chia sẻ thêm. Thánh nhân là vị giáo hoàng gần gũi và mạnh mẽ, ngài luôn truyền cảm hứng cho người khác. Ngài thường xuyên mời gọi người trẻ “mở rộng tâm hồn mình cho Chúa Kitô”. Đó là những điều tuyệt vời dành cho người trẻ.

Kết thúc thánh lễ, bữa tiệc nhỏ là bữa ăn của tình huynh đệ, là buổi giao lưu, gặp gỡ của mọi người. Với người trẻ Việt nam, món ăn tinh thần không thể thiếu, đó là ca hát, nhảy múa, trò chơi vui nhộn. Điều này đã diễn ra khoảng 1 tiếng 30 phút. Thật bổ ích và vui vẻ.

Thánh lễ và tiệc nhỏ kết thúc. Niềm vui rạng rỡ hiện trên khuôn mặt của từng người. Đó là dấu hiệu của niềm vui và ân sủng Chúa ban. Cuối cùng, nhờ lời chuyển cầu của thánh Gioan Paul II, nguyện Chúa tuôn đổ phúc lành trên người trẻ và từng người chúng ta.



日本語訳は
右記から→



福岡教区セクハラ対応窓口

セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談ください。ひとりで悩まず、早めに相談

セクシュアル・ハラスメント相談窓口

電話 080-2694-4182

受付時間 月～金(祝日を除く)

10:00～12:00 13:00～16:00

店休日のお知らせ

カトリック書店「ぶどうの樹」(大名町教会内)
12月30日(月)～1月4日(土)

司教様も「子どもたち、教会に来てください」と呼びかけておられます。感受性豊かな子どもたちが、様々な場面でたくさん神さまの愛を感じ、それを聖霊が、ずっと子どもたちの心にとどめていてくださいますように。(W)

ご挨拶

このたび、福岡教区報の編集の任をアベイヨ司教様より拝命しました。知識も経験もなくすべてが初めてのことで戸惑うばかりです。スタッフに支えられながら歩み始めたと思いますので今後よろしくお願いたします。(U)